

2005年12月期決算説明資料

2006年2月3日

株式会社テンアートニ

(東証マザーズ:3744)



最新のテクノロジーで
真にユーザ主導といえるソリューションを

Cutting-Edge Java&Linux Enterprise Solutions

Contents

- 2005年12月期決算概要
- 2005年基本戦略レビュー
- 2006年の基本戦略
- 2006年12月期業績見通し

2005年12月期業績のまとめ

- 2005年12月期は、利益率の高いビジネスを強化した結果、売上高は対前年同期比10.4%増の4,247百万円、売上総利益は対前年同期比34.3%増の1,294百万円となった。
- 販売費および一般管理費は、営業部門、管理部門の増員等により、1,024百万円となり対前年同期比43.6%増加したものの、売上総利益率の改善により、営業利益、経常利益は増益となった。当期純利益は繰延税金資産の取り崩しにより、対前年同期比32.8%減の222百万円となった。

2005年12月期 業績の概況

〔単位：百万円〕

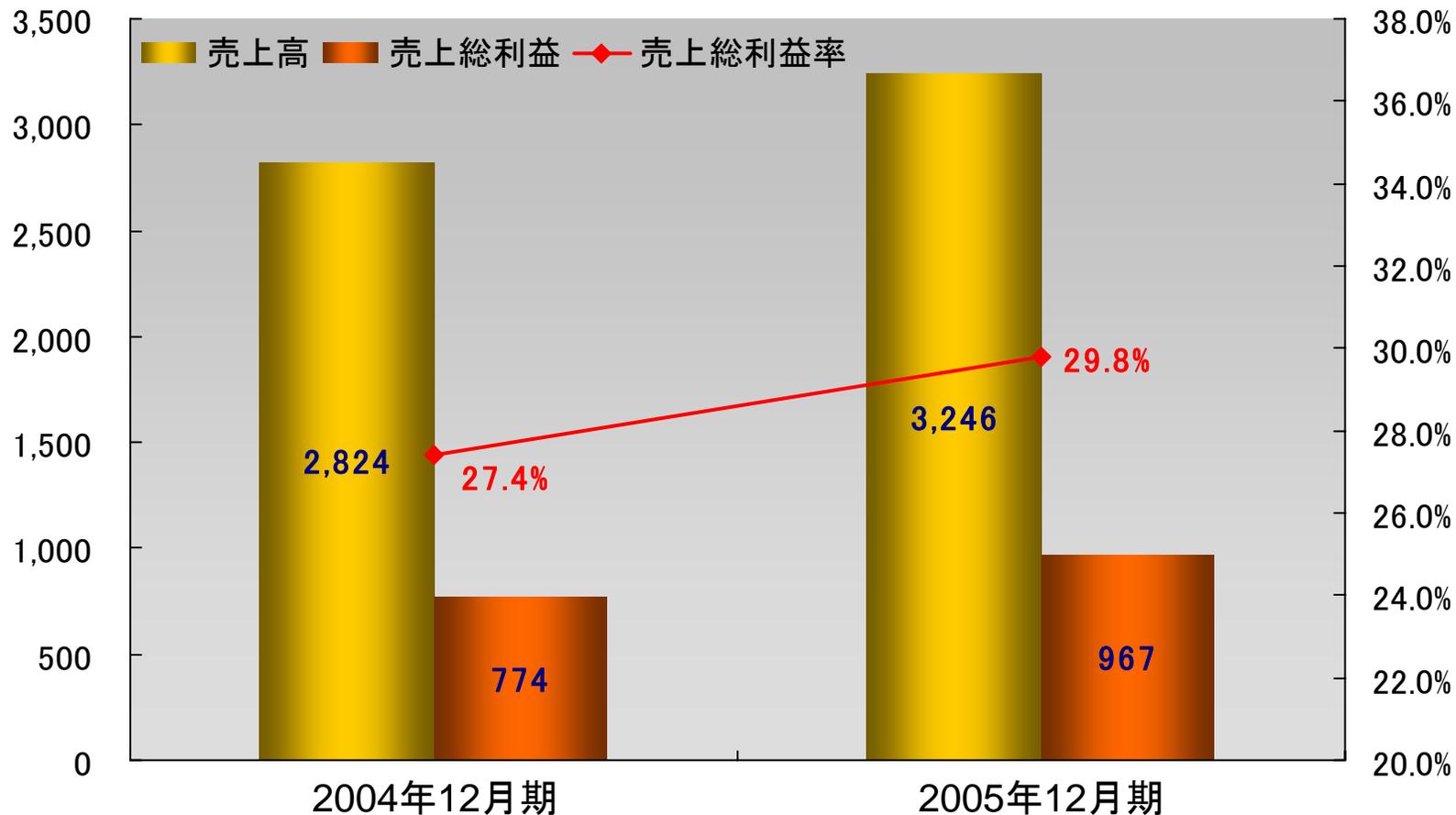
〔単位：百万円〕	2004年12月期 実績	2005年12月期 実績	前期比 伸長率 (%)	2005年12月期 第3四半期業績 発表時予想 (H17.10.26公表)	予想比 伸長率 (%)
売上高	3,848	4,247	+10.4%	4,620	-8.1%
<Linux関連事業>	<2,824>	<3,246>	+14.9%	<3,592>	-9.6%
<Java関連事業>	<1,023>	<1,001>	-2.2%	<1,028>	-2.7%
売上総利益	964	1,294	+34.3%	1,218	+6.3%
販売費・一般管理費	713	1,024	+43.6%	902	+13.4%
営業利益	250	270	+7.9%	315	-14.2%
経常利益	243	268	+10.5%	313	-14.5%
当期純利益	330	222	-32.8%	336	-34.1%

事業別売上高・売上総利益

Linux関連事業

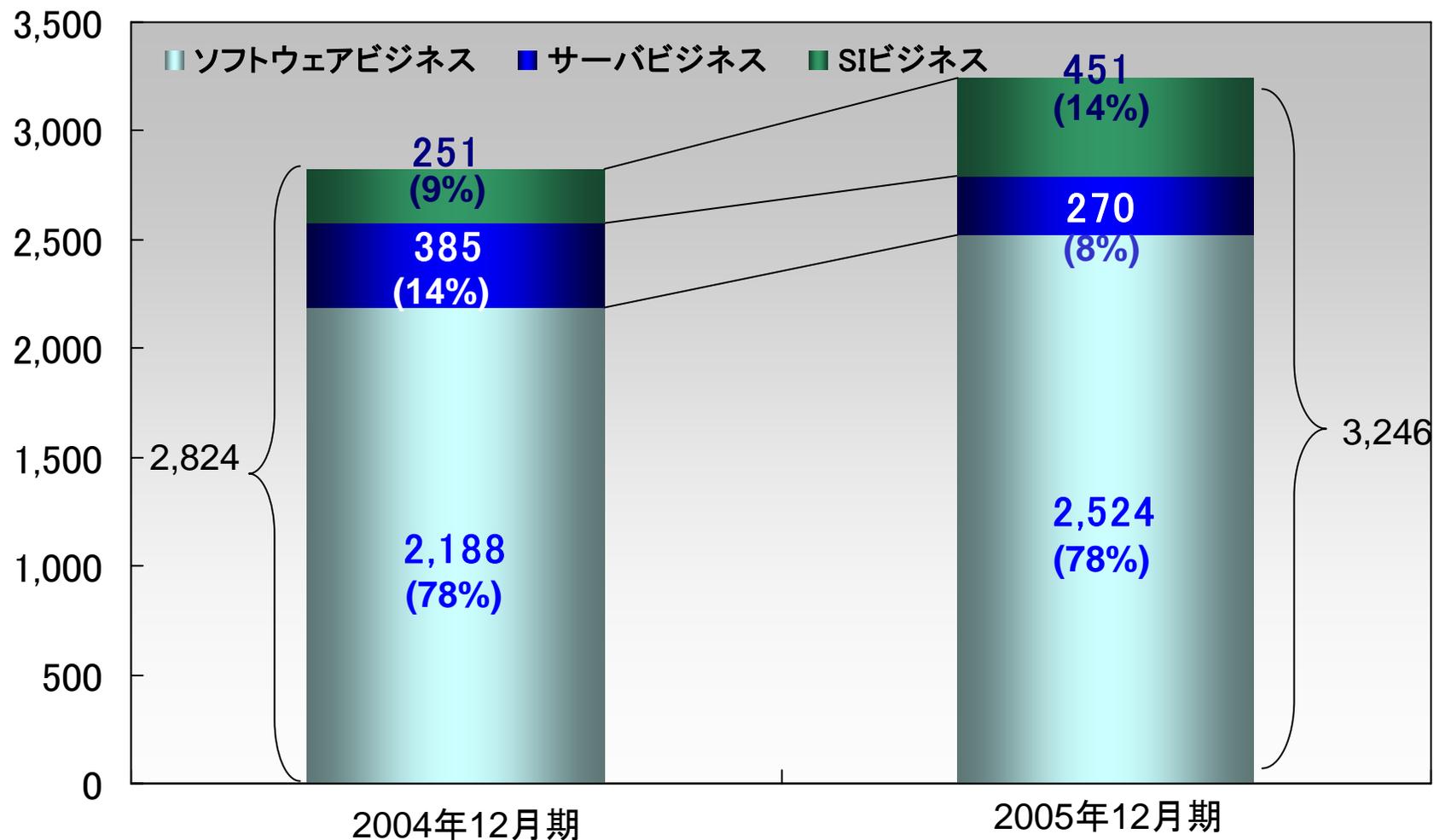
〔単位：百万円〕

売上総利益率



Linux関連事業売上高の内訳

〔単位:百万円〕



Linux関連事業について

■ ソフトウェアビジネス — Linux及び関連ソフトウェアの販売

Red Hat Enterprise Linux Standard PlusやLifeKeeperなどのソフトウェアを販売、サポートする同ビジネスは、販売パートナー企業からの当社に対する様々な要望を的確に把握し、きめ細かな対応を行なうことにより、事業の伸長を目指し、結果として売上高は対前年同期比15.4%の増収となった

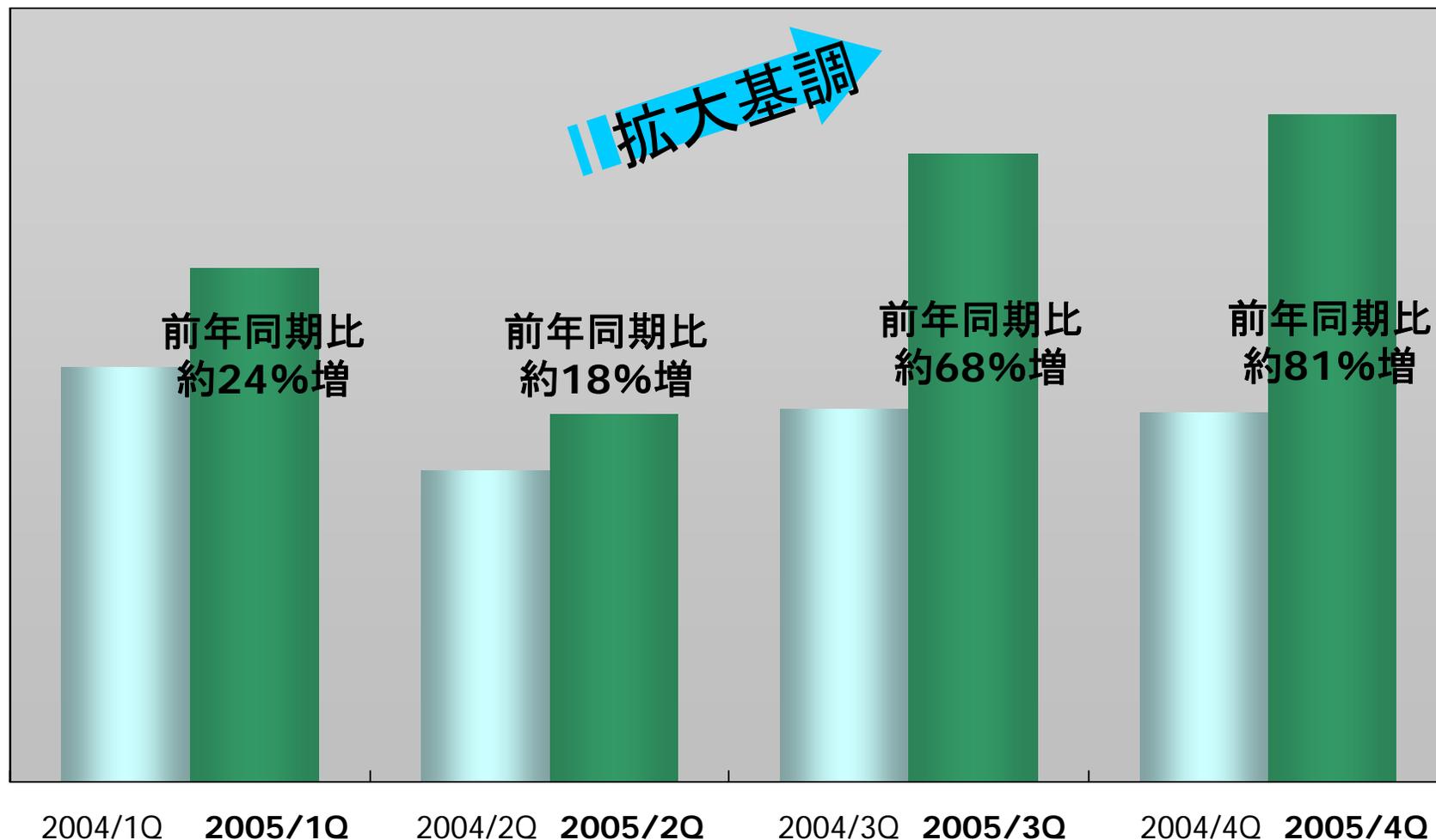
■ サーバビジネス — 自社・他社ブランドのサーバ販売

競合の激化により、売上高は対前年同期比29.8%の減収となった

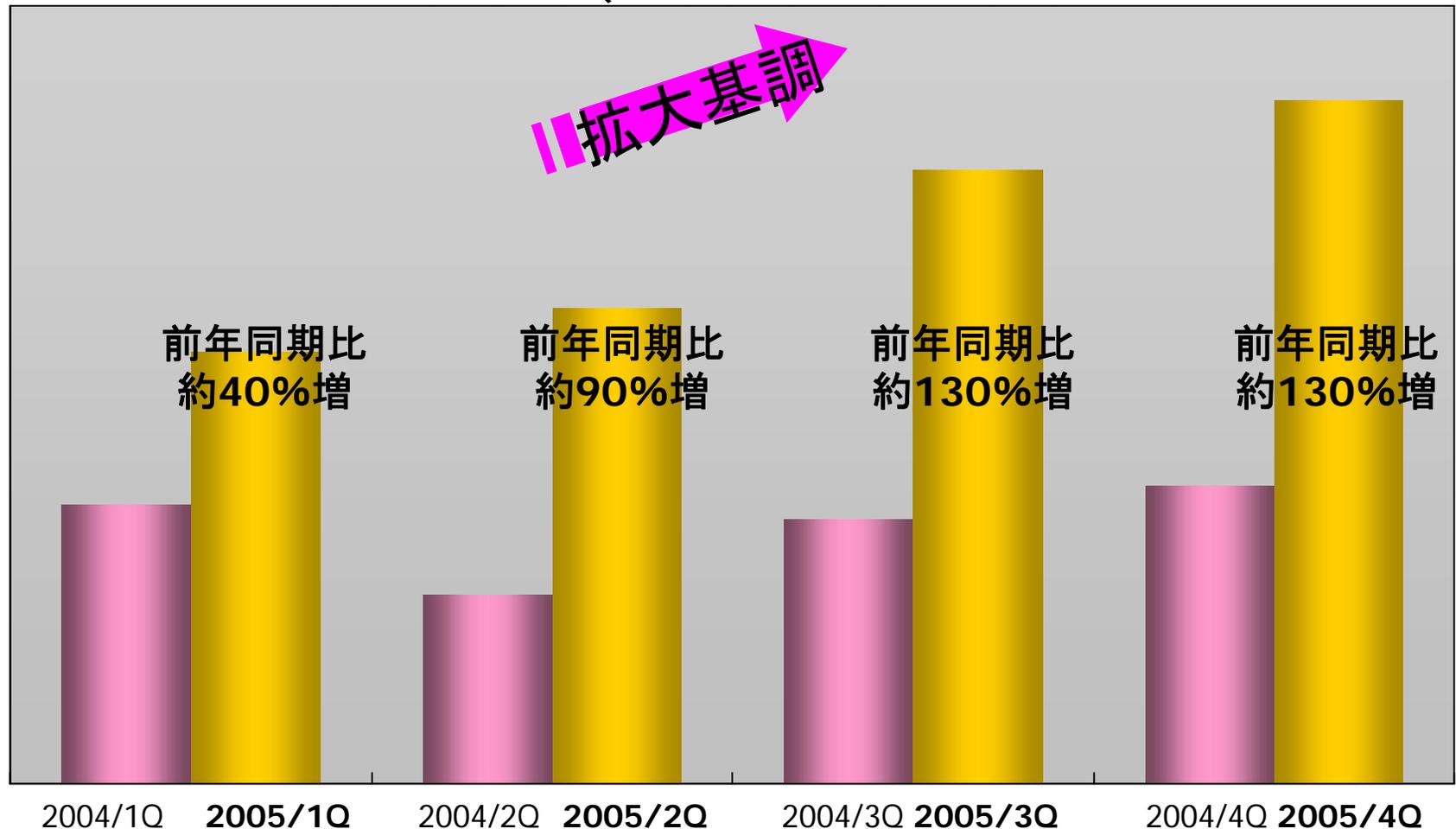
■ SIビジネス — Linux等のシステム構築、コンサルティング、サポート

当社の技術力強化のために人員を増強し売上拡大を目指し、結果として対前年同期比79.6%の増収となった

ソフトウェアビジネス 「LifeKeeper」売上高の推移



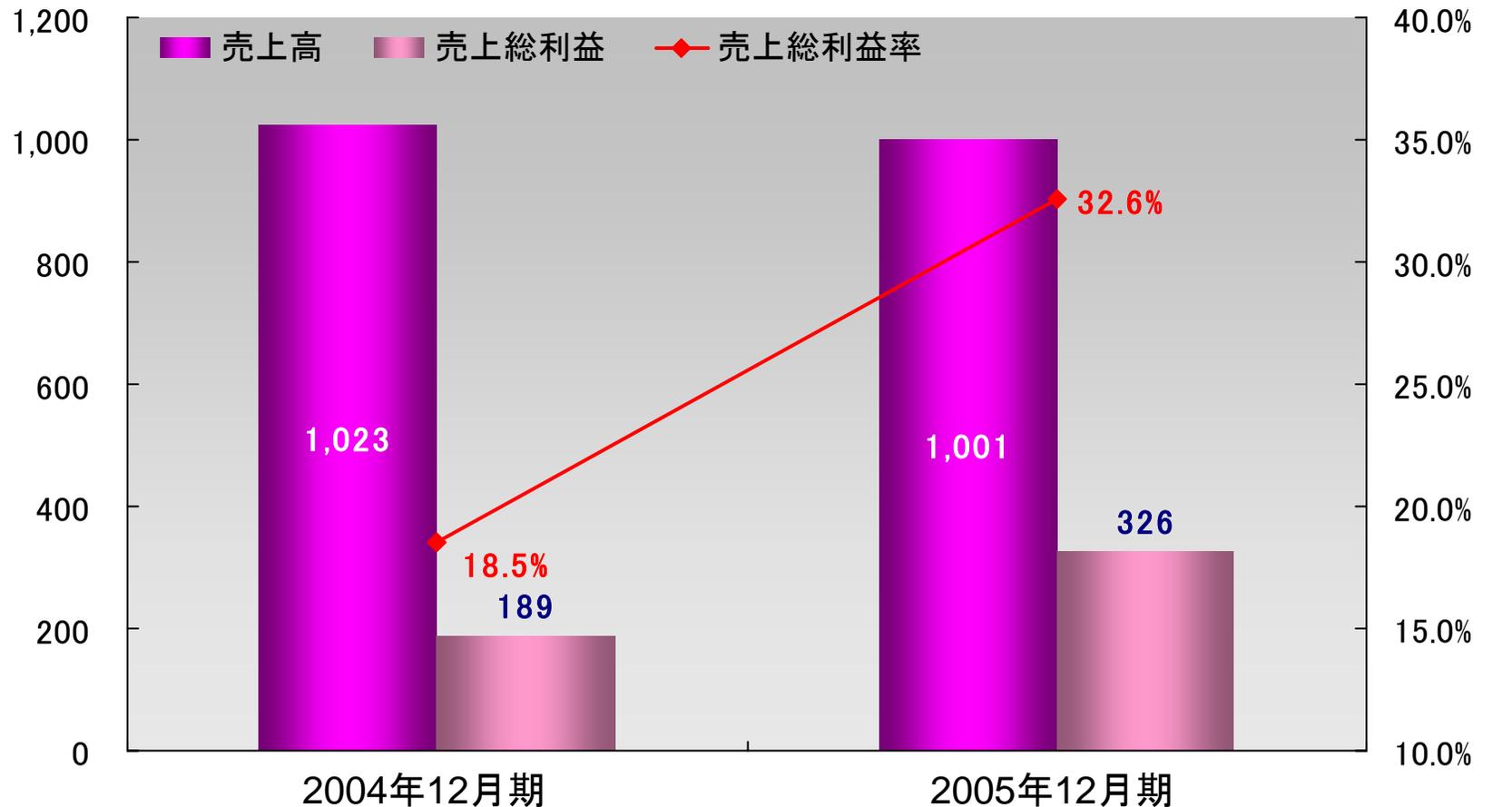
— 四半期毎の獲得契約数(新規契約と更新契約の総計) —



事業別売上高・売上総利益

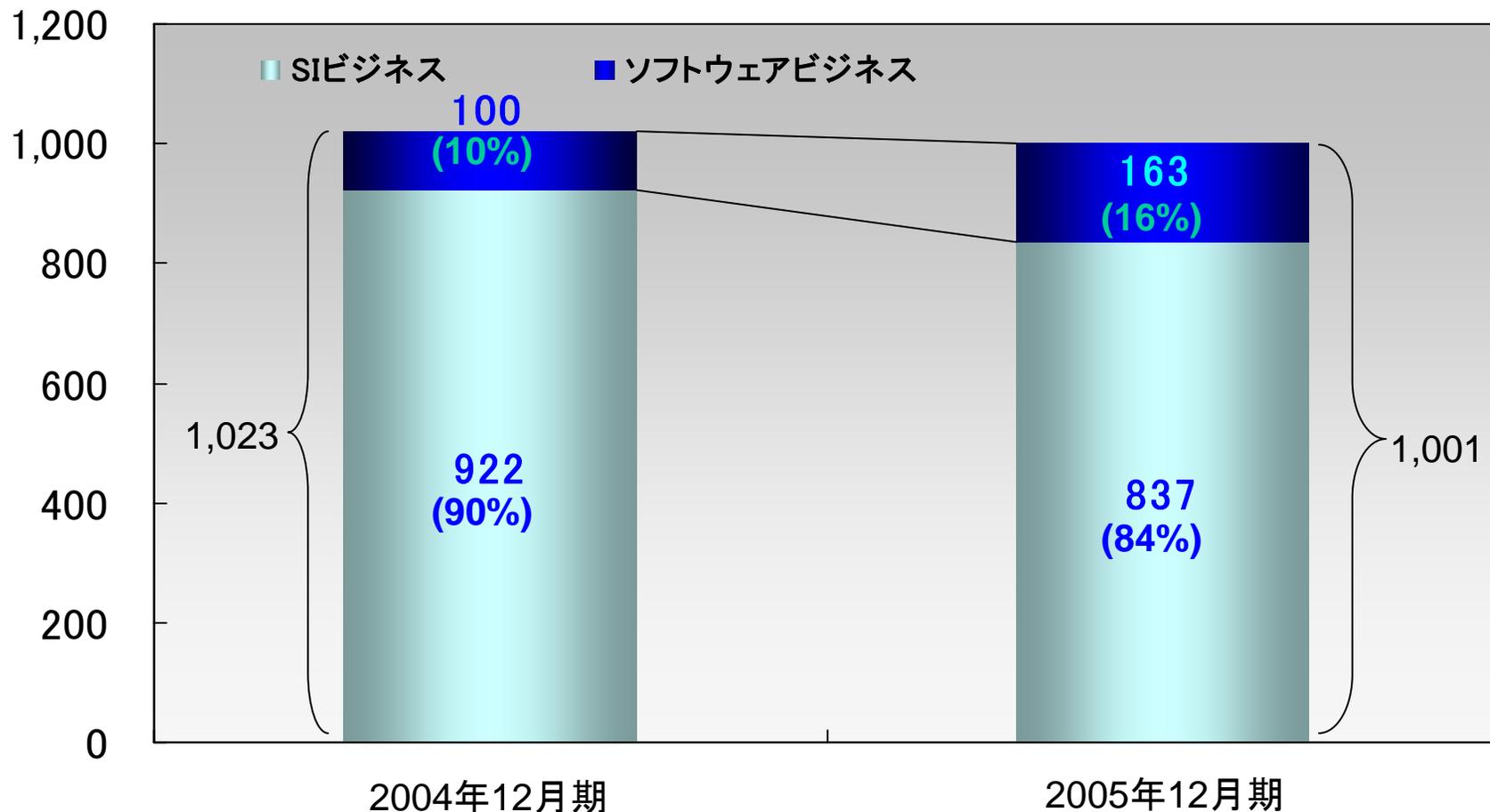
Java関連事業

[単位:百万円]



Java関連事業売上高の内訳

[単位:百万円]



Java関連事業について

- **SIビジネス** --Javaの受託開発、コンサルティング、教育
 - 受託開発において利益の取れるSI案件の受注に注力、売上高は対前年同期比9.2%の減収
- **ソフトウェアビジネス** --当社製品のWebシステム開発ソフトウェア販売
 - 売上高は対前年同期比62.6%の増収
 - オープンソースのJavaフレームワークソフトウェア Ninja-VA
 - 帳票作成ソフトウェア WebReportCafe
 - **NEW!** 営業効率改善ソフトウェア SFA+



売上総利益の拡大を目指し、その結果売上総利益は326百万円となり、対前年同期比72.7%の増益

2005年12月期末貸借対照表

〔単位：百万円〕

	2004年12月 期末	2005年12月 期末	増 減
流動資産合計	1,731	2,607	+875
固定資産合計	212	250	+38
資産合計	1,943	2,857	+913
負債合計	358	986	+628
資本合計	1,585	1,871	+285
負債及び資本合計	1,943	2,857	+913

2005年12月期キャッシュ・フローの状況

〔単位：百万円〕

	2004年12月期	2005年12月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	38	△33
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56	△53
財務活動によるキャッシュ・フロー	520	63
現金及び現金同等物の増加額	503	△23
現金及び現金同等物の期首残高	254	757
現金及び現金同等物の期末残高	757	734

従業員の推移

【全社員(含む契約・派遣社員、除く取締役・監査役)】

〔単位:人〕

		2004年12月末	2005年12月末	前期比 増減
技術		70	84	14
	Linux	30	41	11
	Java	40	43	3
営業		17	24	7
	Linux	10	16	6
	Java	7	8	1
マーケティング・事業開発		11	12	1
事務(含む社内システム部門)		19	30	11
計		117	150	33

Contents

- 2005年12月期決算概要
- 2005年基本戦略レビュー
- 2006年の基本戦略
- 2006年12月期業績見通し

2005年度の基本戦略 レビュー

- オープンソースソフトウェアサポートビジネス強化
- 新製品・新ビジネスモデルの開発
- 海外拠点の立ち上げ

〔2005年2月3日付当社決算説明会にて発表〕

2005年度の基本戦略 レビュー

■ オープンソースソフトウェアサポートビジネス強化

Linuxでの優位性の強化

- ✓ 拡大するセキュリティ市場におけるセキュアOS「SELinux」ならびに「LIDS」の導入コンサルティング・サポート開始

普及拡大するオープンソースソフトウェア市場における新たなニーズへの対応

- ✓ ソフトウェア知的財産の管理ツール「ProtexIP」提供開始

2005年度の基本戦略 レビュー

■ 新製品・新ビジネスモデルの開発

業務アプリケーションへのビジネス領域の拡大

✓ 営業効率改善ソフトウェア「Sales Force Automation+」を販売開始

✓ 7月販売開始で既に4案件受注

サブスクリプションビジネスモデルの創出

✓ ソフトウェア知的財産の管理ツール「ProtexIP」提供開始

2005年度の基本戦略 レビュー

■ 海外拠点の立ち上げ

米国・欧州市場への進出

- ✓ Linux向けHAクラスタソフトウェア市場において全世界でトップクラスのシェア（日本国内では第2位*）を持つSteelEye Technology, Incの買収の基本合意を締結（2006年1月27日）
- ✓ 今後同社販売網を使って自社開発製品の海外販売も検討

(*）出典・・・IDCJapan「2005 年国内HA クラスタリング/サーバーバーチャライゼーションソフトウェア市場」(J5071001)

SteelEye Technology, Inc 概要

- 本社 米国カリフォルニア州パロアルト
- 代表者 Paul Adams
- 設立 1999 年11 月
- 資本金 7,100 千ドル
- 事業の内容
 - 情報システムの障害時に待機用システムへの自動切り替えを行なうHA(ハイアベイラビリティ)クラスタソフトウェアLifeKeeper などの開発、販売
- 従業員数 28 名
- 売上高 5,112 千ドル(2005 年見込み)

株主還元策について

■ 株式分割の実施

- 1:2の株式分割実施(基準日2005年7月31日)
- 投資家層の拡大および当社株式の流動性の向上を図ることを目的に実施

■ 当期末の配当の実施予定

- 早期の配当実施による株主還元の実現
- 配当は1株あたり500円を予定

Contents

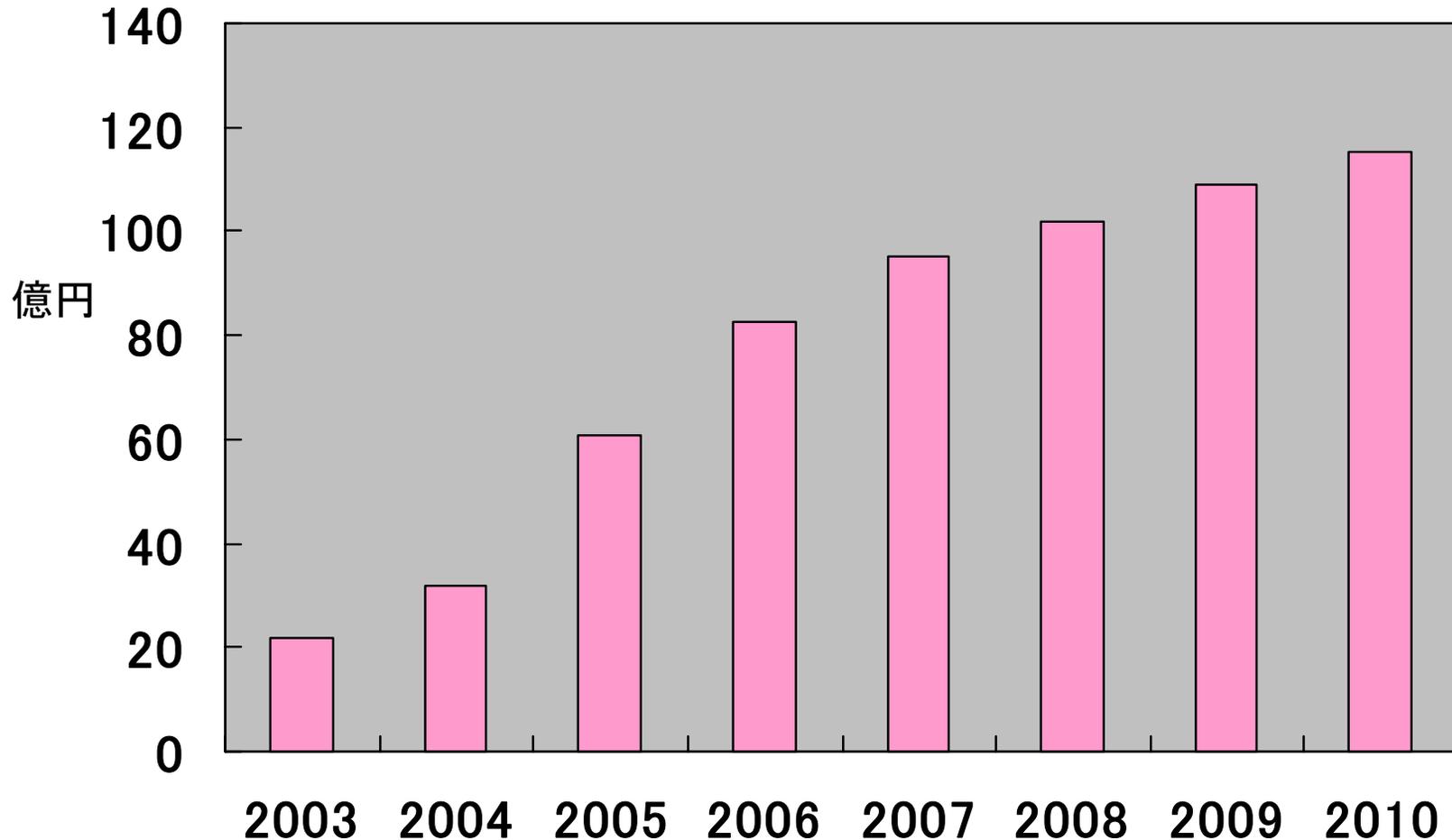
- 2005年12月期決算概要
- 2005年基本戦略レビュー
- 2006年の基本戦略
- 2006年12月期業績見通し

2006年の基本戦略

- Linuxビジネス拡大
- Javaビジネスの差別化
- グローバルマーケットへの挑戦
- 新しいソフトウェアビジネスモデルへの挑戦
- 人材の積極的な採用

Linux市場規模

国内LinuxサーバOS市場規模予測(ベンダー売上額ベース)



(出典: IDC Japan, 1/2006, 国内オペレーティングシステム市場2005年の分析と2006年~2010年の予測)(J6070101)

Linuxビジネス拡大

- Linuxソフトウェアビジネスの拡大
 - LifeKeeper販売強化
 - Red Hat Enterprise Linux サポート契約拡販
- Linux SIビジネスの強化
 - セキュアOS (SE Linux、LIDS) の導入支援、教育事業
 - LifeKeeperを使ったクラスタシステム導入支援

Javaビジネス差別化

- 自社開発ソフトウェア製品による差別化
 - 「SFA+」の機能拡張による競争力強化
 - 販売パートナーとの協業強化
- SIビジネスの差別化
 - ソフトウェア開発プロセスにおけるテスト工程支援ビジネス
 - テストプロセス関連ソフトウェア販売とサービス
- Web2.0に対応したソリューションの提供
 - Blogサイト、ポータルサイト開発受託など
 - 3案件受注

グローバルマーケットへの挑戦

- SteelEye Technology、Inc 買収の完了を目指す
- 当社開発ソフトウェア製品の販売等でシナジー効果を上げる
- グローバルに優秀な人材を獲得する

新しいソフトウェアビジネスモデルへの挑戦

ソフトウェアの多様化



ビジネスモデルの変化

新しいソフトウェアビジネスモデルへの挑戦

- サブスクリプションビジネスモデルの拡大
 - オープンソースサポートビジネス
 - Red Hat Enterprise Linux Standard Plus
 - ソフトウェア知的財産の管理ツール「ProtexIP」
 - Web2.0に対応したソリューションの提供
 - Blog、SNS、Wiki開発等

人材の積極的な採用

		2005年12月末	2006年12月末 予想	前期比 増減
技術		84	112	28
	Linux	41	59	18
	Java	43	53	10
営業		24	39	15
	Linux	16	24	8
	Java	8	15	7
マーケティング・ビジネスデベ ロップメント		12	10	* -2
事務(含む社内システム部門)		30	33	3
計		150	194	44

(* ビジネスデベロップメント部門の部員が技術部門に異動したことによる減です)

Contents

- 2005年12月期決算概要
- 2005年基本戦略レビュー
- 2006年の基本戦略
- 2006年12月期業績見通し

2006年12月期業績見通し

[単位:百万円]

	2005年12月期 実績	2006年12月期 予想 (2月2日公表)	対前期比 増減率
売上高	4,247	5,430	+27.8%
<Linux関連事業>	<3,246>	<4,383>	+35.0%
<Java関連事業>	<1,001>	<1,046>	+4.5%
売上総利益	1,294	1,640	+26.7%
販売費・一般管理費	1,024	1,340	+30.8%
営業利益	270	300	+10.9%
経常利益	268	300	+11.7%
当期純利益	222	125	-43.3%

(注)SteelEye Technology, Inc.の買収については、現状基本合意締結の段階ですので、業績見通しには盛り込んでおりません。